平成２８年度
（第５２期）
事　業　計　画　書
収　支　予　算　書

自　平成２８年　１月　１日
至　平成２８年１２月３１日

公益財団法人　国立京都国際会館

目　　次

１.平成２８年度事業計画　　・・・Ｐ.３－９

２.平成２８年度収支予算等　　・・・Ｐ.１０－１５

はじめに

“Beyond 50th Anniversary”　～50 年の歴史を誇りに～

昭和 41 年（1966 年）5 月 21 日、ここ京都、洛北の景勝地、宝が池のほとりに日本初の国際会議場「国立京都国際会館」はオープン致しました。

国立京都国際会館のシンボルマークには、「世界をひとつにつなぐ」　という願いが込められています。国際会議場にふさわしく、円形は日本の国旗「日の丸」と「地球」を、馬蹄形は会議場の議席をかたどったものです。円形の「集合の中心」に対して、外周は「統合」のシンボルであり、このふたつの力強い構成には、世界をひとつに結ぶという願いが込められています。（デザインは故剣持勇氏）

当館は創立以来、「国際交流と相互理解を促進する場として国際社会に貢献する」というミッションの下、様々な会議の開催を通して、世界平和や環境保全、医学・科学技術の発展、日本文化の世界への発信等を常に念頭において業務を行ってきました。そして、皆様に支えられ早や半世紀が経とうとしています。

平成 28 年 5 月 21 日、国立京都国際会館は創立 50 周年を迎えます。
これを機に、いよいよ来春より待望のニューホールの増築が着工となります。
近年では、国際会議や学術会議の大型化により、スペースや収容人数が不足するようになり、残念ながら、重要な大型国際会議の誘致を逃すこともありましたが、ニューホールの平成 30 年度（2018 年度）完成（予定）により、国の「観光立国に向けたアクションプログラム 2015」にあるように、日本が優位性を有し、更なる発展が期待される科学、技術、医学分野を重点分野とし、当該分野に関する国際会議の誘致に集中的に取組む環境がようやく整いつつあります。

平成 28 年は、10,000 人規模の「第 21 回日本緩和医療学会」や「第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会」を始め、5000 名を超える大型会議が 10 件以上開催されることが決定しており、この勢いをこれからも持続していきます。

折しも、京都は昨年に続き、アメリカのトラヴェル・レジャー誌にて 2 年連続人気観光都市世界ランキング 1 位となり、また、有力旅行誌コンデナスト・トラヴェラーによる人気観光都市ランキングでもアジア 1 位となりました。このような背景を追い風に、日本学術会議、観光庁、JNTO、地方自治体等とも緊密に連携し、これからも京都の魅力を発信し続け、京都のユニークヴェニュー（※）の効果的な活用や、国際会議開催地を実質的に決定する権限を有する者への直接的な働きかけ等により、誘致を強力に進め、国立の会議場として日本全体へその効果を波及させていくことができますようさらに邁進して参ります。

※ユニークヴェニュー：歴史的建造物、文化施設や公的空間等で会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場

平成２８年度事業計画書

1. 平成２８年度事業計画

（1）平成２８年度業務運営について

①開催予定会議の状況について

現時点での平成 28 年度の会議開催件数は、国際会議 60 件、国内会議 200 件、合計 260 件を見込んでいます。また、総参加者数は平成 27 年度と比べ、52,000 人ほど増加する見込みです。これは、日本で初めて開催される「第 13 回国際人類遺伝学会」をはじめ、全館使用規模で且つ３日間以上開催される大型会議（国際学会・国内学会）を春・秋の学会シーズンに多数誘致できたことが大きな要因です。

➢主な国際会議

催　事　名	期　　間	参加人数
公益社団法人日本青年会議所 2016 年度京都会議	2016/01/21～01/24	14,000
第 13 回国際人類遺伝学会	2016/04/03～04/07	3,000
第 56 回日本呼吸器学会学術講演会	2016/04/08～04/10	7,500
第 64 回日本輸血・細胞治療学会総会	2016/04/28～04/30	2,500
第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会	2016/05/19～05/21	10,000
第 12 回アジア超音波医学学術連合大会 第 89 回日本超音波医学会学術集会	2016/05/26～05/29	5,000
第 115 回日本皮膚科学会総会	2016/06/03～06/05	6,000
第 53 回日本リハビリテーション医学会学術集会	2016/06/09～06/12	5,000
第 21 回日本緩和医療学会学術大会	2016/06/16～06/18	10,000

第 31 回日本白内障屈折矯正手術学会学術総会（JSCRS）	2016/06/24～06/26	2,000
第 26 回日本医療薬学会年会	2016/09/17～09/19	7,000
科学技術と人類の未来に関する 国際フォーラム第 13 回年次会合	2016/10/02～10/04	900
第 40 回国際外科学会世界総会	2016/10/23～10/26	3,000
第 70 回日本臨床眼科学会総会	2016/11/03～11/06	7,000
第 32 回京都賞授賞式 ・記念講演会・記念ワークショップ	2016/11/10～11/12	3,000
日本放射線腫瘍学会第 29 回学術大会	2016/11/25～11/27	3,000

➢主な国内会議

催　事　名	期　　間	参加人数
第 31 回日本環境感染学会総会	2016/02/19～02/20	8,000
平成 28 年度診療報酬改定点数説明会	2016/03/24～03/25	4,000
第 89 回日本内分泌学会学術総会	2016/04/21～04/23	3,000
第 26 回日本臨床工学会及び平成 28 年度 公益社団法人日本臨床工学技士会総会	2016/02/19～02/20	2,000
洛中悠楽　第 31 回 JOCP 全国大会	2016/07/08～07/10	2,000

注）平成 27 年 12 月 31 日現在　公開可の催事を表示

②大型国際会議の誘致と積極的な MICE 開催支援について

中期的な財政基盤の安定のためには、先行して、4 年から 8 年程度先に開催される大型国際学会を戦略的に誘致していくことが重要です。昨今、大型学会の早期開催地決定の傾向が顕著に見られるため、ニューホール完成後の動きを想定した誘致活動を「オール京都」態勢で取組んでいきます。また、安定的な収益確保の観点から、学会のみならず、企業会議やインセ

ンティヴ等、比較的大規模な催事（3,000 名程度）や中規模催事（500～1,500 名程度）の複数同時開催も視野に入れた効率的なプロモーション活動を進めるとともに、併せて中期的観点からの MICE 誘致にも注力していきます。

➢誘致中の主要な国際会議

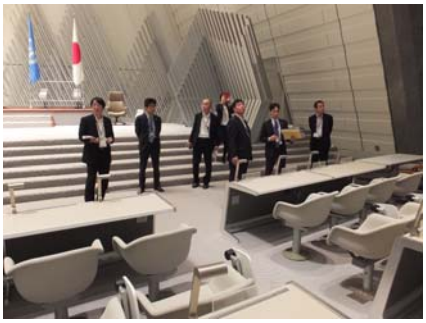
・国連犯罪防止･刑事司法会議

主催：UNODC　United Nations Office on Drugs and Crime
（国連薬物･犯罪事務所）

参加人数：4,000 名

会期：2020 年 5 月

備考：横浜、神戸と競合。日本開催は決定済みです。



➢誘致中の主要な大型国内会議

・日本消化器関連学会週間　JDDW

主催：日本消化器関連学会機構

参加人数：20,000 人

会期：2020 年 11 月

備考：大規模学会ですが、ニューホールが完成すれば開催可能です。

➢大型国際会議の進捗状況

・第 23 回世界神経学会議

主催：世界神経学会

参加人数：7,000 人

会期：2017 年 9 月

備考：9 月の準備会合では、国際本部役員や海外の会議運営会社も参加し、国際会館、コンベンションビューロー、関連業者で構成する「チーム京都」とともに関連プログラムや支援などを協議してきました。また、11 月にチリで開かれた会議では、「チーム京

都」と主催者の協同により京都ＰＲブースを設ける等、主催者と地元が一体となり準備を進めております。国際本部や海外関係者等と直接折衝する経験を重ね、今後の海外戦略と人材育成にも活かしていきます。

③顧客満足度の向上について

会議とともに参加者の印象が深いケータリング（飲食）の水準及び会議終了後のアンケートの精度を上げ、顧客満足度を向上させていきます。

➢ケータリング・サービスの向上

現在、株式会社国立京都国際会館食堂と一体となって、サービス・品質の向上並びに新商品開発、新たな販路の開拓等に積極的に取り組んでいます。会議とライトアップされた庭園パーティのパッケージ企画、会議参加者のリフレッシュメントプランなどの新規商品開発やハラル対応メニューの充実等により、当館の総合的な魅力を高め、直接的にアピールするだけではなく、様々な販売ルートの新規開拓にも力を注ぎ、ニューホール完成後を見据えた取扱いの拡大を目指していきます。

➢Web アンケートによる顧客の意向調査

顧客に満足頂けるサービスを提供し、さらにその質を高めてゆくため、

従前から実施していたハガキによるアンケートをWebアンケートに切り替えます。開催都市・開催会場選定の意向調査等を項目に含めることで、より誘致戦略に役立つ内容とし、また、国際会館へのご要望・ご意見等を詳しく把握し、お客様からの声を反映させ改善に努めます。

④国際交流及び地域貢献の推進について

これまでも様々な機会を捉えて、日本文化の紹介、国際交流に寄与する自主企画事業の実施、更には、大学、自治体、関係諸団体等と連携した取組みを行ってきましたが、平成28年度も、知的交流都市京都の中核施設として、広く皆様にご理解・ご協力を賜ることができるよう、また、創立50周年を機に、ステークホルダーにもアピールし、感謝の気持ちを表せるよう充実した企画事業を行っていきます。

平成28年実施予定の主な行事

➢国際交流推進事業

・国立京都国際会館創設50周年記念「日本のMICEを京都から語る」(仮)

➢地域貢献推進事業

・創立50周年記念「桜さくらスペシャルディズ2016」
・創立50周年記念「宝松庵茶会」
・創立50周年記念・地下鉄国際会館駅延伸20周年記念「乾杯の夕べ」

⑤コンプライアンスの向上及び危機管理体制の強化について

コンプライアンスの言葉の語源は「期待に沿う、応える」ということでもあり、更なる法令順守により、顧客、地域社会等の社会的要請にしっかり応えていきます。

➢コンプライアンスの強化

・定期的に「コンプライアンスに関するセミナー」を開催し、継続的な職員の倫理観と士気の高揚を図っていきます。
・マイナンバー制度の導入に伴い「特定個人情報等取扱規程」を遵守し、リスク管理及び信頼の醸成に努めていきます。
・監事との一層の緊密な連携により、監査の充実に努めていきます。
・管理運営業務や工事等の各種契約事務に関しては、調達審査委員会等

において審査・審議を行い、引続き透明性の確保に努めていきます。

➢ 危機管理意識及び体制の強化

会議参加者にとってより一層安心・安全な会議場運営を目指し、全職員が防火防災に関して高い意識と専門的な知識及び技能を身につけておく必要があることから、平成 27 年度に行った職員の自衛消防訓練大会への積極的派遣や専門家による有事を想定した実践的な危機管理研修会の開催等リスクマネージメントの強化に努め、また、新たに「英語版」「子供用」AED を導入しました。これらの実績を踏まえ、平成 28 年度も、近年多大な被害が報告されている大規模自然災害、地震・火災等の非常時における適切な対応及び危機管理意識の一層の向上を目指し、引き続き自衛消防訓練を始め、災害発生時に役立つ実践的な訓練を実施していきます。加えて、京都市との災害協定に基づき、地域の災害支援対策の一環として京都市から備蓄物資を受け入れ、災害時に備えていきます。無許可無人航空機対策等時代に即した危機管理体制の強化にも積極的に取り組むとともに、テロ対策の重要性を鑑みた体制強化も行っていきます。

⑥人材育成の推進と新人事評価制度の導入について

創立 50 周年を迎え、当館を取り巻く環境が大きく変化している状況下、顧客満足度が高く、お客様に選ばれる施設であり続けるためには、職員が意欲、能力を如何なく発揮し、組織の価値、競争力等の向上に繋がる仕組みが必要です。中長期ヴィジョンと目標をしっかり見据えた人材を育成し、組織としての機動性の向上を目指し、平成 28 年度から、新たな人事評価制度を導入します。その人事評価制度の導入に際し、平成 27 年度には、外部機関による客観的な組織診断の分析結果も踏まえ、当財団の発展へと繋がる適切な目標設定の仕方を学ぶ研修を実施しました。引き続き、平成 28 年度は、当財団の目指す目標

と求める人材像に対する適切な評価方法等を学ぶ研修機会を設けるなど、制度の円滑な導入により、人材育成を推進していきます。

（２）創立 50 周年記念関連事業の展開について

創立 50 周年の記念事業として、新たに決定したキャッチ・コピー「″Beyond 50th Anniversary” ～50 年の歴史を誇りに～」を基本に据え、以下のような事業を効果的且つ粛々と実施していきます。なお、記念事業として、年度事業とは別にニューホールの完成時（平成 30 年度完成予定までの期間）も見据えた記念関連事業の企画も順次検討していきます。

記念事業（案）

①記録・広報関係…記念誌、新聞・雑誌への掲載、ロゴマークの作成等

② 事業関係…MICE 関係シンポジウム、自主企画事業の充実・工夫 等

③ 営業活動関係…記念グッズなど営業 PR 用の各種取り組み

（３）役員（理事）の改選について

平成２８年３月開催の評議員会をもって任期満了となる理事７名の改選が予定されています。今後のスケジュールとしては、３月開催の定例評議員会での選任に向け、２月上旬に役員等候補選出委員会を開催し、次期候補者を選出することとなります。

平成２８年度収支予算書

2. 平成２８年度収支予算等

（1）平成２８年度収支予算等について

収入は、使用料収入 16 億 5,000 万円に、その他収入 1 億 500 万円を加え、合計で 17 億 5,500 万円を見込んでいます(対前年度で 2 億 8,900 万円の増加)。一方、支出は、16 億 9,300 万円の見込みとなります（対前年度比で 1 億 7,900 万円の増加)。この結果、平成 28 年度予算案における収支は、会場使用料収入の増加に加え、更なる増収や経費削減に努め、6,200 万円の収益を見込んでおります。なお、平成 27 年度の収支は、約 5,000 万円の損失（予算 4,800 万円の損失）になる見通しです。

（2） 資産取得事業と大型修繕について

平成 28 年度は、資産取得事業 3,150 万円、大型修繕 4,100 万円の執行を予定しています。

資産取得事業　（単位：千円）

	項目	金額
1	メインホールプロジェクターの更新	20,000
2	経理課会計ソフト更新	10,000
3	業務用無線機の更新	1,500
	合　　計	31,500

修繕・改修計画　（単位：千円）

	項目	金額
1	建築物安全検証法による点検	3,000
2	グリル/B1/B2 カーペット補修工事	11,000
3	井水ろ過機維持修繕工事	15,000
4	茶室屋根改修	5,000
5	庭園整備	2,000
6	各種会議支援機器修繕費	5,000
	合　　計	41,000

１．平成２８年度 予定貸借対照表

（単位：千円）

科　目	28年度予算
Ⅰ.資産の部	
１．流　動　資　産	
現金	5,000
預金	721,450
未収金	150,000
販売物品	100
仮払消費税	0
流動資産合計	876,550
２．固　定　資　産	
基本財産	
指定正味財産	375,950
一般正味財産	224,050
計	600,000
有形固定資産（通常運用）	
建物附属設備	305,045
車両運搬具	4,822
工具器具備品	376,211
立木	1,000
茶室建物	74,243
茶室備品	3,018
その他固定資産（通常運用）	
設備工事負担金	14,500
(計)	778,839
減価償却累計額	△567,910
計	210,929
有形固定資産（第一次運用）	
工具器具備品	55,725
減価償却累計額	△ 49,700
計	6,025
有形固定資産（第二次運用）	
工具器具備品	19,876
減価償却累計額	△ 19,875
計	1
有形固定資産（第三次運用）	
工具器具備品	53,031
減価償却累計額	△ 53,030
計	1
有形固定資産（第四次運用）	
工具器具備品	88,948
減価償却累計額	△ 88,793
計	155
有形固定資産（随時運用）	
工具器具備品	482,364
減価償却累計額	△473,393
計	8,971
無 形 固 定 資 産	
会議ソフトウェア	45,000
通信加入権	725
(計)	45,725
減価償却累計額	△9,000
計	36,725
基　本　財　産　計	862,807
特定資産	
退職給付資金	262,000
特別修繕資金	25,000
資産取得資金	60,000
計	347,000
特　定　資　産　計	347,000
固定資産合計	1,209,807
資 産 合 計	2,086,357

（単位：千円）

科　目	28年度予算
Ⅱ.負債の部	
１．流　動　負　債	
未払費用	70,000
前受金	50,000
一時預り金	5,000
職員預り金	9,000
仮受消費税	7,950
未払法人税等	0
流動負債合計	141,950
２．固　定　負　債	
保証預り金	60,600
退職給付引当金	262,000
特別修繕引当金	25,000
固定負債合計	347,600
負 債 合 計	489,550
Ⅲ.正味財産の部	
１．指 定 正 味 財 産	
基本財産	375,950
指定正味財産合計	375,950
２．一 般 正 味 財 産	
基本財産	224,050
事業運営財産	262,807
資産取得準備金	60,000
繰越金	674,000
一般正味財産合計	1,220,857
正味財産合計	1,596,807
負債及び正味財産合計	2,086,357

平成28年12月31日現在

２．平成２８年度 予定正味財産増減計算書内訳表

平成２８年１月１日から平成２８年１２月３１日まで　　（単位：千円）

科　目	公益事業				収益事業					法人会計	内部取引消去	合　計
	公益１	公益２	共通	小計	収益１	収益２	収益３	共通	小計			
Ⅰ一般正味財産増減の部												
１．経常増減の部												
（１）経常収益												
① 使用料	1,485,000	0	0	1,485,000	165,000	46,000	20,000	0	231,000	0	0	1,716,000
会場使用料	1,485,000			1,485,000	165,000				165,000			1,650,000
飲食施設使用料				0		43,000			43,000			43,000
駐車場使用料				0			20,000		20,000			20,000
売店使用料				0		3,000			3,000			3,000
② 地下鉄連絡通路料				0			8,000		8,000			8,000
③ 自主企画事業料		19,000		19,000					0			19,000
④ 基本財産等運用益	9,300			9,300					0			9,300
⑤ その他収入				0		3,000			3,000			3,000
経常収益計	1,494,300	19,000	0	1,513,300	165,000	49,000	28,000	0	242,000	0	0	1,755,300
（２）経常費用												
① 事業費	1,441,848	38,850	0	1,480,698	160,207	7,789	28,256	0	196,252	0	0	1,676,950
人件費	366,854	4,246		371,100	40,762	4,246	4,246		49,254			420,354
委託費	199,571	2,277		201,848	22,175	700	14,700		37,575			239,423
運営費	713,012	1,689		714,701	79,224	1,633	600		81,457			796,158
維持管理費	162,411	1,838		164,249	18,046	1,210	1,210		20,466			184,715
地下鉄連絡通路維持費				0			7,500		7,500			7,500
自主企画事業費		23,800		23,800					0			23,800
50周年記念事業費		5,000		5,000					0			5,000
② 管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,150	0	16,150
人件費				0					0	4,246		4,246
法人運営費				0					0	10,319		10,319
維持管理費				0					0	1,585		1,585
経常費用計	1,441,848	38,850	0	1,480,698	160,207	7,789	28,256	0	196,252	16,150	0	1,693,100
当期経常増減額	52,452	△ 19,850	0	32,602	4,793	41,211	△ 256	0	45,748	△ 16,150	0	62,200
２．経常外収益												
（１）経常外収益												
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（２）経常外費用												
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	52,452	△ 19,850	0	32,602	4,793	41,211	△ 256	0	45,748	△ 16,150	0	62,200
法人税等								0	0			
当期一般正味財産増減額	52,452	△ 19,850	0	32,602	4,793	41,211	△ 256	0	45,748	△ 16,150	0	62,200
一般正味財産期首残高			0	1,158,657						0		1,158,657
一般正味財産期末残高	52,452	△ 19,850	0	1,191,259	4,793	41,211	△ 256	0	45,748	△ 16,150	0	1,220,857
Ⅱ指定正味財産増減の部												
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高			375,950	375,950								375,950
指定正味財産期末残高			375,950	375,950								375,950
Ⅲ正味財産期末残高	52,452	△ 19,850	375,950	1,567,209	4,793	41,211	△ 256	0	45,748	△ 16,150	0	1,596,807
	政府等による国際会議、学術会議等に関する事業	国際交流等に関する事業			公益目的事業に該当しない催事に関する事業	飲食・宿泊・売店等に関する事業	有料駐車場等に関する事業					

平成28年度収支予算

平成28年1月1日から平成28年12月31日まで

（単位：千円）

収　入　の　部			
科　目	当年度(H28)	前年度(H27)	増減
使用料	(1,716,000)	(1,433,500)	282,500
使用料収入	1,650,000	1,350,000	300,000
飲食宿泊施設使用料収入	43,000	40,000	3,000
駐車場収入	20,000	41,000	▲ 21,000
その他収入	3,000	2,500	500
利息収入	(9,300)	(8,000)	1,300
基本財産利子	9,200	7,900	1,300
受取利息	100	100	0
その他収入	(3,000)	(3,000)	0
地下鉄連絡通路収入	(8,000)	(6,800)	1,200
自主企画事業収入	(19,000)	(15,000)	4,000
合　計	1,755,300	1,466,300	289,000

（単位：千円）

支　出　の　部			
科　目	当年度(H28)	前年度(H27)	増減
人件費	(424,600)	(420,700)	3,900
職員給料	248,600	242,500	6,100
期末手当	84,100	76,900	7,200
退職金	25,800	38,800	▲ 13,000
通勤手当	8,600	9,000	▲ 400
法定福利費	53,900	50,500	3,400
福利厚生費	3,600	3,000	600
委託費	(241,700)	(225,000)	16,700
会場設営費	38,000	38,000	0
駐車場費	14,000	14,000	0
館内案内費	24,000	23,000	1,000
警備費	33,700	32,000	1,700
清掃費	49,000	42,000	7,000
電気機械保守費	70,000	63,000	7,000
派遣費･報酬等	13,000	13,000	0
運営費	(804,200)	(691,100)	113,100
電力使用料	60,000	56,000	4,000
ガス使用料	80,000	80,000	0
水道使用料	3,900	3,500	400
広報宣伝費	5,600	5,000	600
通信運搬費	6,400	6,000	400
運営用消耗品費	13,000	13,000	0
会場運営諸費	635,300	527,600	107,700
管理費	(186,300)	(149,500)	36,800
修繕保守費	71,000	30,000	41,000
庭園保守費	27,800	26,500	1,300
交際接待費	2,000	2,000	0
旅費	7,000	6,000	1,000
事務印刷費	15,000	10,000	5,000
保険料	2,500	2,000	500
会議行事費	1,000	1,000	0
諸会費分担金	7,000	4,000	3,000
諸費	3,000	3,000	0
減価償却費	50,000	65,000	▲ 15,000
地下鉄連絡通路費	(7,500)	(7,500)	0
自主企画事業費	(23,800)	(20,500)	3,300
50周年関連事業費	(5,000)	0	5,000
当期収支差額	(62,200)	(▲ 48,000)	110,200
合　計	1,755,300	1,466,300	289,000